

動きのヒントのある歌詞付き音楽を用いた振付について

A Study on Choreography Using Music which Contains Lyrics with Hints of Movement

小笠原 大輔 安東 有花

Daisuke OGASAWARA Yuka ANDOU

湘北短期大学 神奈川県立大和高等学校

Shohoku College Kanagawa Prefectural Yamato High School

【抄録】 高校生ダンス部員 29 名を対象に、動作、方向、オノマトペなどの動きのヒントとなる歌詞の入った音楽を聴いてもらい、それに合わせて自由に振付を考えてもらった。出てきた振付をそのフレーズごとに分類したところ、「回って」では 3 つの軸のうち、ほとんどの者が垂直軸であったが、1 年生に比べ 2 年生では前額軸や「その他」の割合が大きい傾向がみられた。2 回出てくるフレーズにおける動きのバリエーションを比べても、やはり 2 年生の方が異なる動きをする割合が大きい傾向にあった。高校入学までにダンス経験のある者は、各々得意なジャンルの振付を入れることが多く、またダンス未経験の者は独創的な動きを入れることが多い傾向にあった。またオノマトペ部分では同じ動きや似ている動きが出やすいことがわかった。

【キーワード】 ダンス、身体表現、オノマトペ

1. はじめに

1-1. 「アッサリ体操」とは (図 1)

「アッサリ体操」とは本研究者が 2012 年に考案 (作詞) した、動きのヒントとなる歌詞が含まれている音楽に合わせて踊るダンス教材である。時間は 20 秒程度で気軽に踊ることができるほか、動きのヒントとなる歌詞に合わせて振付自体も

「アッサリ体操」
作詞:小笠原大輔
作曲・編曲:三宅純平
歌:笠井晴子

右に回って
ハイハイハイ
左に回って
ハイハイハイ
膝膝膝膝
しゃがんで パッ

図 1 歌詞

自ら考えて行うことができることから、年齢問わず楽しめるのが特徴である。「指示 (言葉) が同じでも、人によってその解釈と表現の仕方は異なる」ことを理解して楽しむことを目的に考案したものであることから、決まった振付を敢えて設定してはいない。

1-2. 予備実践

短期大学保育学科の学生数名に、先述の「指示 (言葉) が同じでも、人によってその解釈と表現の仕方は異なる」面白さを実感・体験してもらうために、この「アッサリ体操」の見本動画 (図 2、3) を見せ、その後自分で動きを考えてもらおうと

いう活動を行ったところ、非常に好評であった。その際に「保育学科の学生である」ということ、加えて「曲自体もコミカルで子ども向けとしても活用できそうなイメージがある」ことなどから、「回って」という歌詞に対して全員が (幼児でも遂行可能な) 垂直軸で回っていた (図 2 の右側の



図 2 見本動画「回って」部分



図 3 見本動画「パッ」部分

男性と同様)。また「パッ」では、ほぼ全員が四肢を大きく伸ばし、手の平を開くポーズ(図3の右側の男性と同様)を見せた。簡単な動きは誰でも真似しやすいという利点もあるが、動きのバリエーションといった観点からは物足りなさを感じる。

そこで、日々創作ダンスに励む高校生創作舞踊部員を対象に、この「回って」で垂直軸以外の軸回転である前額軸回転(前転など)、矢状軸回転(側方倒立回転など)が出現するのか、また「パッ」では違った動きやポーズが出現するのか等、動きのバリエーションを調査した。

2. 方法

2-1. 対象

神奈川県内の高校創作舞踊部 29名(1年生16名、2年生13名)を対象とした。このうち25名が高校入学までにバレエやジャズ、新体操などのダンスまたは身体表現系種目を経験しており、未経験者は4名であった(表1)。

2-2. 方法

「アッサリ体操」を動画は伏せて音楽のみ聴いてもらい、それに合わせて自由に振付を考えて発表してもらった。プロトコールは以下のとおりである。

- ①週末の課題として自宅で曲を聴き、振付を考える
- ②3日後に体育館において10分間練習
- ③2人組になり、お互いスマートフォンで撮影し合う
- ④動画提出

回収した29個の動画それぞれを以下のフレーズごとに分けて、動きをカテゴライズした。

- ①「右に回って」 ②「ハイハイハイ」 ③「左に回って」 ④「ハイハイハイ」 ⑤「膝膝膝膝」 ⑥「しゃがんで」 ⑦「パッ」

これら7つのフレーズのうち、①、③、⑦を、また⑦と同じくオノマトペである②、④についても調査対象とした。

尚、統計的解析にはJavaScript – STAR XR¹を用いた。

表1 ダンス経験

1	新体操7年、テーマパークダンス2年
2	新体操11年
3	リトミック5年、クラシックバレエ12年
4	モダンバレエ12年、クラシックバレエ7年
5	モダンバレエ10年
6	ヒップホップ7年、ガールズヒップホップ5年
7	ヒップホップ5年間
8	ヒップホップ1年、ダンス4年
9	クラシックバレエ9年、体操2年
10	クラシックバレエ9年
11	クラシックバレエ3年、新体操11年
12	クラシックバレエ12年
13	クラシックバレエ10年
14	クラシックバレエ10年
15	クラシックバレエ10年
16	チアリーディング6年
17	チアリーディング3年
18	ダンス9年(ミュージカルを学ぶ劇団に所属し様々なジャンルを習う)
19	ダンス4年半
20	ダンス4年半
21	ダンス10年
22	ジャズモダン12年、劇団でヒップホップ、ガールズヒップホップ、コンテンポラリーダンス、クラシックバレエ、歌、演技3年
23	ジャズダンス8年、タップ3年半、クラシックバレエ2年半、モダンジャズ1年、歌、演技4年
24	ジャズ4年
25	シアターダンス7年、ミュージカル2年、チアリーディング3年
26	なし
27	なし
28	なし
29	なし

3. 結果及び考察

3-1. ①「右に回って」と③「左に回って」(図4)

回転動作が見られたものに関しては「矢状軸」「前額軸」「垂直軸」に分け、回転以外の動作を「その他」とした。①+③即ち左右の合計でカウントしたため、全動作は29名×2方向=58個である。

58個のうち、69%が垂直軸であった。しかし同じ垂直軸でももちろん様々な回り方が出現し、

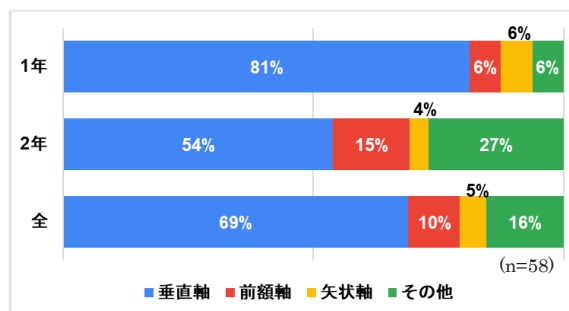


図4 ①「右に回って」と③「左に回って」

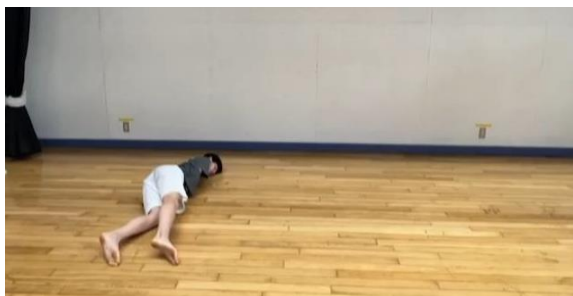


図5 垂直軸（横転）



図6 垂直軸（バレエ系）



図7 矢状軸（側方倒立回転）



図8 前額軸（後方転回）



図9 その他

保育学生に圧倒的に多かった「行進しながら回る」はもちろん、床に寝転がって「横転」（図5）なども見られたが、シェネなどバレエ系のターン（図6）が24%で比較的多くみられた。矢状軸は5%のみであり、いずれも側方倒立回転で（図7）あった。この集団は日常的に様々な種類の側転（側方倒立回転をアレンジした動作が多いため、広く用いられている呼称である「側転」を用いた）の練習を行っている^{2,3}ことから、今回も振付に取り入れる者が多いと予想していたが、実際の出現数はかなり少なかった。前額軸（図8）は前転、肩抜き後転、前方・後方転回であった。回転以外の「その他」（図9）は16%であり、右に倒れたり、左に踊りながら進んだりなどであった。これらは「回って」の動作ではなく「右に（左に）」の方向を動きのヒントとして採用していると考えられる。

学年間比較では、割合の有意差はなかったが、2年生の方が垂直軸の割合が54%と小さく（1年生は81%）、また「その他」の割合が27%と大きい（1年生は6%）ことなどから、2年生の方が動きのバリエーションが多い傾向にあることがうかがえる。

3-2. ⑦「パツ」のバリエーション（図10）

全体の割合では、「かなり（全身で）開く」（図11）が55%であり、「やや（部分的に）開く」（図12）も含めると、69%であった。やはり「パツ」というオノマトペは共通のイメージを持ちやすいことがうかがえる。「日本語のオノマトペの音象徴性の例」（坂本 2019）より、子音「/p/」は「ピンと張ったもの、水しぶき、表面、突然」、母音「/a/」は「平さ、広がり、大きい表面、派手さ」のイメージと結びつく⁴ことから、大きく広がりのある、四肢を張った（伸ばした）動きが多く出現したと考えられる。

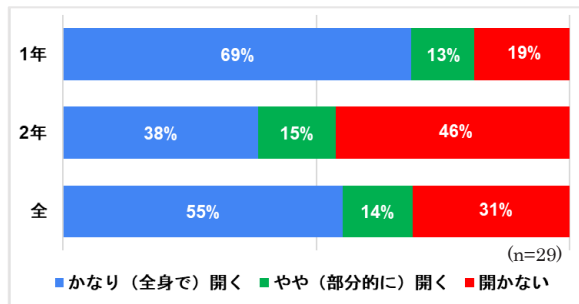


図10 「パツ」で開くイメージの有無



図 11 かなり（全身で）開く

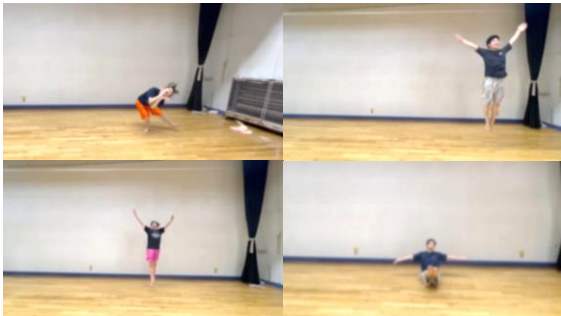


図 12 やや（部分的に）開く

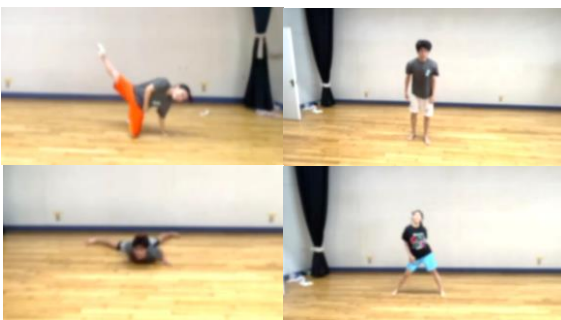


図 13 「パッ」で開かない
（※左下は両脚が開いてはいるが、これはその前からの状態であり、「パッ」のタイミングでは顔を上げるのみであった）

学年間比較では、割合の有意差はなかったものの、2年生の方が「開かない」別の動きやポーズ（図 13）をする者の割合が 46%と大きく、1年生（19%）の 2 倍以上であったことから、やはり「回って」と同様に 2 年生の方がバリエーションが多い傾向にあることがうかがえる。

3-3. 2 回出てくるフレーズに対する動きの同異

右方向および左方向の計 2 回出てくるフレーズに対して動きが同じかどうかをみた。

3-3-1. ①「右に回って」と③「左に回って」（図 14）

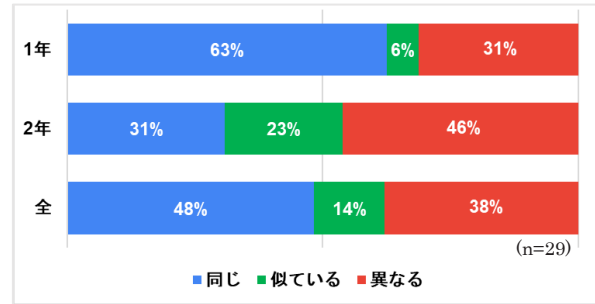


図 14 「右に(左に)回って」の同異

全体では 48%で約半数が左右「同じ」動きであり、「似ている」（14%）も含めると 62%であった。一方、動きが「異なる」者は 38%であったが、回転軸自体を変えた者は 1 名のみで（矢状軸→前額軸）、それ以外は全員「同じ回転軸で動き方を変える」（図 15）であった。このことから 2 回出てくる「回って」において、それぞれの回り方にバリエーションを加えたとしても、それは「動き方」のみであり、ほぼ全員が回転軸の種類までは変えていないことが明らかになった。これも先述のとおり「曲自体もコミカルで子ども向けとしても活用できそうなイメージがある」こと、同じメロディかつほぼ同じ指示（違いは「右」か「左」のみ）であることから自然に「右と左は繰り返し」になったと考えられる。

学年間比較では、割合の有意差はなかったが、2 年生の方が左右で異なる動きが出現する割合が 46%と大きく（1 年生 31%）、動きのバリエーションが多い傾向にあることがうかがえる。

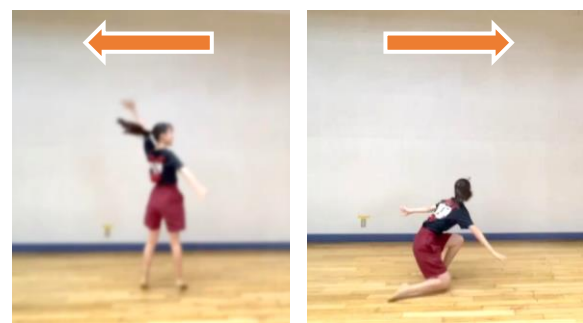


図 15 左右で回り方が異なる
（どちらも垂直軸）

3-3-2. ②「ハイハイハイ」と④「ハイハイハイ」（図 16）

「ハイハイハイ」が右方向および左方向の 2 回出てくるが、この 2 回の動きが同じかどうかをみた。「回って」と同様に全体では 48%で約半数が

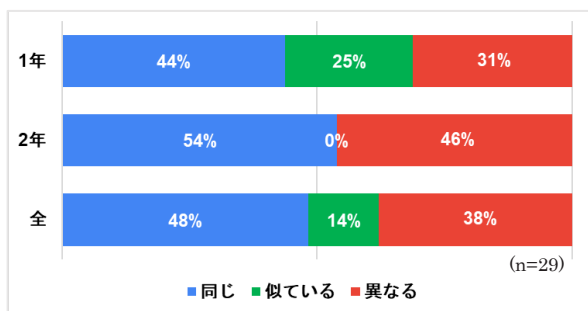


図16 「ハイハイハイ」の同異

左右「同じ」動きであり、「似ている」(14%)も含めると62%であった。一方、動きが「異なる」者は38%であった。また学年間で割合の有意差はなかったが、こちらも2年生の方が左右で異なる動きが出現する割合が大きく、動きのバリエーションが多い傾向にあることがうかがえる。

3-3-3. ①③「右に(左に)回って」と②④「ハイハイハイ」の関係(表2)

①と③「回って」で同じ動きになった場合に②と④「ハイハイハイ」でも同じ動きになるかどうかみてみた。直接確率計算を行った結果、有意であり、中程度の連関が認められた(片側検定:

表2 ①③「右に(左に)回って」と②④「ハイハイハイ」の関係

		②④「ハイハイハイ」		
		同・似	異	
①③「回って」	同・似	16	2	18
	異	2	9	11
		18	11	(p<.01)

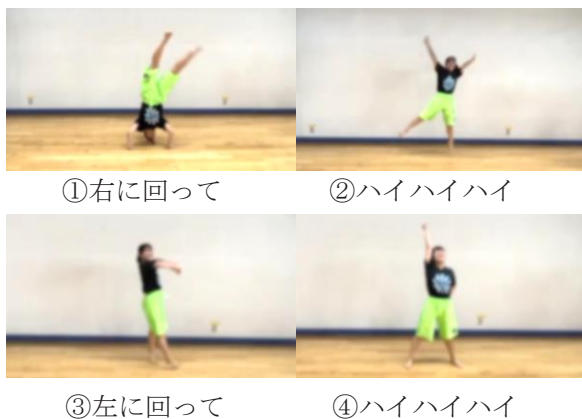


図17 「回って」も「ハイハイハイ」もそれぞれ左右で異なる動き

p<.01、φ=0.634、h=1.5810)ことから、「回って」の2回が同じ動きなら「ハイハイハイ」でも2回が同じ動きになり、逆に「回って」の2回が異なれば「ハイハイハイ」の2回も異なる(図17)ことが明らかになった。

4. まとめ

短期大学保育学科の学生が「アッサリ体操」を行ったところ、「回って」という動作指示フレーズでは全員が、また、「パッ」というオノマトペではほぼ全員が同じ動きを見せたが、高校創作舞踊部では、多種多様な動きが出現した。前者では回転軸の種類が「垂直軸」の1種類のみであったが、後者では「前額軸」「矢状軸」も加わり3種類全て出現した。それでもやはり「垂直軸」が圧倒的に多いのは3つの軸回転の中で唯一「(ジャンプを除けば)両脚とも宙に浮く局面が無い(簡単にいえば「逆さまにならない」)ために、危険度・恐怖度・難易度が低い」回転だからであろう。また同じ回転軸であっても創作舞踊部の場合、様々な動きが出現しているが、これは動きの鍛錬を日常的に行っていることから当然の結果といえる。これはオノマトペ「パッ」についても同様である。

左右で繰り返されるフレーズに対して、半数以上が同じ(または似ている)動き、つまり繰り返しの動きとなったが、これについては「アッサリ体操」の曲の特徴として「幼児向けのような曲調」であることにも起因すると考えられる。また繰り返しの最初の部分である①「右に回って」に対して、③「左に回って」が同じになるかどうかで、その後に続く②「ハイハイハイ」と④「ハイハイハイ」の動きも同じになるかが決まってくるというのも非常に興味深い結果である。

さらに学年間による動きの出現の仕方に関して有意差は認められないものの、どのフレーズにおいても割合は異なる様相を見せ、2年生の方が動きのバリエーションが多い傾向にあることも、想定通りであった。表1に示したダンス経験の有無及び年数に関して、ここでは学年は記していないが、学年間に明白な差は無かった。つまり様々なジャンルのダンス経験および年数による影響ではなく、高校入学後における、これまでの習い事としての(教えてもらう)ダンスとは一味違う「主体的に考え創作する」という経験年数の違い

が、今回の結果に表れていたと推察できる。

印象としては、1年生は曲の雰囲気先行であり、バレエ経験者以外は男子も含め、似た印象(曲の取り方や表情、保育者や体操のお姉さんのような雰囲気)であった。一方、2年生は自分が得意とする動きを入れることをメインに考えている者が多く感じられ、自分の得意とするジャンル別に明確な違いが出ていた。

以上、回転軸及び「ハイハイハイ」「パッ」などオノマトペに着目し、29名の振付をフレーズ毎、パターンに分けて考察してきたが、もちろん個々の動きはそれぞれ違って面白かった。その中でも、特に変わっていた動きの者が3名いた。彼らは、ダンス未経験者で高校に入ってからダンスを始めている。他の者と違って得意なジャンルのダンスがあるわけではないことから、いわば「ゼロからの振付」になり、結果的にダンス経験者とは異なる独特な動きになったと考えられる。もちろん様々なダンスのジャンルがあり、それらに長年打ち込むことで、できる動きの「数(いわゆる“引き出し”）」は当然増える。しかしながら、ジャンル特有の動きは言わば本人にとって「やりやすい動き」「考えなくても悩まなくても出てくる動き」である。そしてそれは往々にして「どこかで見たことのある動き」「名前のついている動き」

であることが多い。やや乱暴な言い方であるが、ダンス経験者は「創作」というよりはむしろ「編集(既にある動きの並び替え)」が多く、未経験者は「(苦労して生み出した)創作」であったようにも感じる(もちろんどちらが良い悪いといった話ではない)。

今回は特別な指示は付加せず、ただ「曲を聴いて好きなように振付をする」という課題であった。今後「オリジナリティ溢れる(他の人が考えないような)振付をする」という課題で調査を行う予定である。

引用・参考文献

- 1 中野博幸・田中 敏 js-STAR XR+ release 1.5.0 j <https://www.kisnet.or.jp/nappa/software/star/index.htm>
- 2 小笠原大輔(2018)ダンスの指導 Q&A・ダンス指導実践集 「AJDF 神戸入賞常連校の練習ってどんな感じですか?」,女子体育 p.42
- 3 小笠原大輔(2014)「開 - 閉 -開脚側転」に関する調査 - 「蹴り蹴り側転」への導入として-,pp.111-120, 湘北紀要第35号
- 4 坂本真樹(2019)五感を探るオノマトペ p.43, 共立出版.

A Study on Choreography Using Music which Contains Lyrics with Hints of Movement

Daisuke OGASAWARA

Yuka ANDOU

【Abstract】

The 29 high school dance club members who listened to the music of "Assari-Taisou", which contains lyrics that provide hints for movement, direction, onomatopoeia, etc., came up with choreography as they liked according to the music. When the movements that appeared was categorized by its phrase, most of the members rotated on the vertical axis among the three types of rotation axes in "Let's turn". The ratio of "frontal axis" and "others" tended to be higher in second graders than in first graders. Comparing the variation of movements in phrases that appear twice, second graders also tended to make more different movements than first graders. Those who had dance experience before entering high school tended to include choreography in their own genres, while those who had no dance experience tended to include original movements. In addition, it was found that the same or similar movements tended to occur in the onomatopoeia part.

Assari-Taisou, Dance, Physical expression, Onomatopoeia